

2023年1月5日

報道各社 御中

全国農業協同組合連合会三重県本部（JA全農みえ）

今年産「三重いちご」のできばえを競う共進会開催

三重県の代表的な園芸特産物のひとつ「イチゴ」のできばえを競う、「第36回三重県いちご共進会」を開きます。

本共進会は、栽培技術の向上により消費者が望む高品質でおいしいイチゴ生産を推進し、消費拡大をはかることを目的に、出荷ピークを迎える時期に毎年開催しています。

県内各地域から100点以上のイチゴが出品予定で、県中央農業改良普及センターや県内卸売市場関係者らが果実の外観や食味を評価し、最高位の「農林水産大臣賞」をはじめとする各賞を決定します。

このようすをぜひ取材いただきたく、下記のとおりご案内申し上げます。

記



◆と き:2023年1月12日(木) 10:00~14:00(審査)

◆ところ:JA三重ビル 5階 大会議室
津市栄町1-960

◆主 催:三重県園芸振興協会

◆事務局:JA全農みえ 営農対策部



↑ 昨年の審査のようす



【ご取材時のお願い】

ご取材時には、新型コロナウイルス感染症対策（マスク着用、手指消毒、一定距離の確保など）へのご協力をお願いいたします。



スケジュール

※進行状況により、時間帯は前後にずれることがあります。

項目	時刻	時間(分)	内容
1次審査	10:00	80	審査員の打ち合わせ・目ぞろえ後、形や色など果実外観の審査
集計・準備	11:20	60	1次審査終了次第、集計し、2次審査対象イチゴを決定（1次審査の上位30点程度）
2次審査	12:20	40	審査員による食味など果実内容の審査
集計・準備	13:00	30	2次審査終了次第、集計し、入賞者選考の対象イチゴを決定
審査委員会	13:30	30	審査員による入賞者選考と並行し、共進会会場の公開
閉会	14:00		

三重県いちご共進会とは

県産イチゴの栽培技術と品質の向上をはかることを目的に、三重県園芸振興協会（会長：前田孝幸、事務局：JA全農みえ営農対策部）が毎年開催し、今年度で36回を数えます。

県関係機関や卸売市場などの専門家による審査をおこないます。果実の外観や内容についてのさまざまな項目を総合評価し、農林水産大臣賞をはじめとする各賞を決定します。

三重県のイチゴ概要

栽培面積	70ヘクタール（2021年産）農林水産省野菜生産出荷統計より
収穫量	1,930トン（2021年産）農林水産省野菜生産出荷統計より
栽培品種	「章姫（あきひめ）」「かおり野（の）」「紅（べに）ほっぺ」など
産地	伊勢市、松阪市、多気郡を中心に生産
生育状況	2022年産は、昨年産に比べ生育が遅かったものの、気温が高めに推移し日照量もあったため、12月上中旬ごろには出荷が出揃いました。
生産概要	2022年産「三重いちご」（JAグループ出荷のブランド名）は、生産者238人、32.2ヘクタールで栽培され、このうち本県開発品種「かおり野」の作付面積は約4割となっています。

